

## 下関市入札監視委員会（第4回）審議概要

開催日時	平成23年2月22日 13:30		
場所	下関市役所議会棟3階 第1委員会室		
委員	中谷正行（弁護士） 太田周二郎（大学教授） 岡孝（高等学校教諭） 藤本博美（ファイナンシャルプランナー）		
審議対象期間	平成22年10月1日 ～ 平成22年12月31日		
審議対象総件数	323件	（抽出工事名称）	
抽出案件	条件付一般競争入札	180件	下関市立熊野小学校法面災害復旧工事
	指名競争入札	134件	下関北バイパス工事に伴う武久町一丁目150・100・50mm配水管撤去工事
	随意契約	9件	平成22年度奥山工場180t炉定期整備工事（2期）
指名停止等の運用状況	4件9社		
議事概要及び委員からの意見・質問、それに対する回答等	議事項目、意見等	別紙のとおり	
	議事結果、回答	別紙のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告の内容	特になし		

議事項目、意見・質問	議事結果、回答
<p>下関市立熊野小学校法面災害復旧工事</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>入札結果では、落札外の業者が多数出ているがなぜか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常、設計金額に下限値の80%を掛ければ最低制限の額がほぼ算出できるが、本市では設計金額に電子くじによる予定価格率を乗じて予定価格を算出するため、その範囲のとりかたによって差が生じた結果と思われる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>電子くじを採用している理由はなにか。また、下関市以外に電子くじを導入しているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子くじにより予定価格を予想できない形での競争入札を採用することで、合理的で公正な入札方式となると考えている。電子くじを県内の市で導入しているのは本市だけである。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>落札外の業者が多数出る場合設計金額が高すぎるとは言えないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計金額は、設計担当課で一定の基準により積算しており、土木や建築等の工事は、標準歩掛等の基準があり、それに基づき積算しており適正な設定になっていると認識している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての業者が最低制限価格に満たないことがあったか。またその場合どうなるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての業者が最低制限価格に満たなかったときは、不調となり再度入札に付することになる。過去にあったかは承知していない。</li> </ul>

<p>下関北バイパス工事に伴う武久町一丁目 150・100・50mm 配水管撤去工事</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>指名競争入札に参加した業者が少ないのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上下水道局の工事請負事務取扱要綱を定めているが、設計額により指名業者数を定めている。その規定により、本工事の設計金額では4者以上となっているため4者を指名した。なお、施工内容は管の撤去で、設計額も250万の工事であり競争性が働かなかったのではないかと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>配水管の撤去工事後は、付替えるのか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>撤去して新たに道路が出来上がった後に付替える計画である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>指名した4者に辞退者があったが、理由は何かと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本工事に技術者の配置等ができないなどの理由ではないかと。</li> </ul>
<p>平成22年度奥山工場180t炉定期整備工事（2期）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期整備工事の内容は。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>奥山工場のごみ焼却炉のうち、180t炉の下部にある溶融炉のストーカー整備やボイラーの点検整備などが主なものである。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期整備工事の計画は定期的になっているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期整備は年2回で、夏に大規模な点検整備を行い、翌年の1～2月に残りの整備等を行なう。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"><li>• 今年度の定期整備の内容は、例年と同様か。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 単純な比較は出来ないが、定期整備を行ないながら不具合があれば修理等が必要となるため、当然定期整備費用は年により変わってくる。例えば、ごみ焼却施設のようなプラントであれば、建設後7年目頃に費用のピークが来ると言われており大規模メンテナンスの後、6～7年周期で費用の山がくる。</li></ul>
--	--